



NO. 11
平成21.10.1発行

「にじ」は男女でつくる社会への架け橋。
一人ひとりが輝くまちづくりに向けて
共に考え、行動してみませんか。

墨田区男女共同参画情報誌

4 ページ

特集

地域から始めよう！
男女

共同参画

女性も意思決定の場に参画しよう
誰もが参加できる仕組みづくり
男女共同参画の視点から見直そう



2 ページ 巻頭インタビュー

漫画家 赤星たみこさん

“生活の自立”が
できることが基本
家事は家族みんな
の仕事です



6 ページ 区民レポート

私のチャレンジ!

久米信行さん「一人ひとりの力を活かす」

須貝利喜夫さん「お父さんのPTA活動」

鎌形由美子さん「人の役に立つという貴重な経験」

8 ページ インフォメーション

10 ページ 墨田さんちの
男女共同参画物語

まだまだある就職差別？

～さくらの就活奮闘記の巻

12 ページ 私らしく輝いて

社会の役に立つ仕事がしたいと思い
介護の仕事に再就職しました

濱田嘉之さん

赤星たみこさん

漫画家

漫画家として活躍する一方、エコロジーマな生活の実践者として知られる赤星たみこさん。イラストレーターである夫と共に、効率的かつ楽しみながら家事をこなす生活を送っています。そんな赤星さんに、家事を楽しむコツについてお聞きしました。



プロフィール

1979年漫画家デビュー。
ラブストーリーからコメディまで軽妙なタッチで描かれた作品が、男女を問わず人気を博する。もったいないの精神からエコロジーマに根づいた生活を実践。その方面での講演等も多数こなす。
主な著書に『グランマ』『エコロジーマ』『赤星生活』など多数。

漫画家として忙しい日々を過ごされている赤星さんが、エコロジーマに興味をもったきっかけについてお聞かせください。

漫画家は夜中まで仕事をしているため、朝のごみ出しが辛いという、単純なことがきっかけです。デビューした頃、よく出しそびれてしまい、部屋中ごみが溜まっていました。そこで、朝早く起きるくらいならごみを減らすと考へ、それが結果的にエコロジーマな生活につながったというわけです。

ごみを減らすといっても、私は地球の環境を考えて始めたエコロジーマではないので、特別なことをしたわけではありません。その基本方針は至って簡単で、プリンやスプーンや割り箸など、ごみになるものはできるだけもらわない、使わないというものです。イラストレーターの夫と結婚し、自

然豊かな千葉で暮らしている現在、生ごみは生ごみ処理器で処理しているの、自治体のごみ収集日には一切出していない。洗顔からシャンプー、洗濯、掃除まで石鹸を使っているの、プラスチックの容器もほとんど出ませんし、最近ではペットボトルのお茶を買うともったいないので、自宅で作ったお茶を水筒に入れて持ち歩いていきます。もったいないの精神で暮らしていると、自然とエコな生活になるもの

家事についてはいかがですか。パートナーとはどんな分担で協力しているのでしょうか。

夫の場合、母親が子どもの時から何でも自分でやらせるようにしていたため、基本的な家事はできますので、できる人ができる時に行うというスタイルにしています。

私は人間の自立で大事なものは、家事だと思っています。人間として本当に自立をしている人というのは、身の回りのことを自分で管理できる人だと思っています。妻が入院したらご飯も作れない、下着のある場所もわからないという男性は、本当に自立しているとは言えないと思います。

家事は、子どもも大人も、家族の誰もがやるべきものだと思います。女性にこの信念がないから、夫や子どもに家事を分担してほしくて、「まあ、私がいればいいや」とあきらめてしまっているのではないのでしょうか。

親の務めは子どもに料理や洗濯、掃除などの家事のスキルを身につけさせて、社会で生きていける一人前の大人に育てあげることです。でも、何でもやってあげるのが親の役目と思っている人が案外多いようです。家庭を会社にたとえるなら、社員み

んなが営業ができた方が業績があがるわけですから、家事についても子どもだけでなく夫にも伝えるべきです。みんなの幸せのために、家事は家族でやることをおすすめします。

家事が苦手な人もいると思います。家族のみんなが楽しんで家事をやるコツを教えてください。

子どもの場合は褒めて伸ばすのが一番だと思います。案外、子どもは小さいうちは遊びと同じ感覚でやりたがるものです。

自分がやったほうが早いと思わず、ぜひ一緒に手伝わせてみませんか。失敗してもいいではないですか。子どもにテレビを観させておいて、その間に自分でおいしい料理を作った時間より、子どもと一緒に失敗しながら作った時間のほうが、子どもと濃密にふれ

“生活の自立”ができることが基本 家事は家族みんなの仕事です



あえる時間だと思います。

洗濯も然りで、一緒に洗濯物をたたむのは時間がかかるけれど、子どもが大人になったとき必ず役立つはずですよ。

ただし、大人の男性の場合、家事をすすんでやるには違うコツが必要です。

うちの場合、夫は家事ができるといっても、掃除などは得意ではなかった。好奇心をそそるよう工夫しました。男性の場合、「汚れているからきれいにして」ではやってくれません。実は換気扇の汚れはお湯で溶いた石鹸を使うと、驚くくらいピカピカになります。専用のクリーナーでも、これには及びません。実践してみせたら「えっ、すごい。どうしたの？ やらせて」と、見事にはまってくれました。

最後に身近に取り組める男女共同参画のヒントについてお聞かせください。

私は家事につきると思います。家事をみんなの仕事だと思って始めてみませんか。家族一人ひとりの自立につながるし、自分でやってみれば大変さもわかるし、感謝の気持ちも持てるようになります。これからは家事のできる男性がもてる時代です。

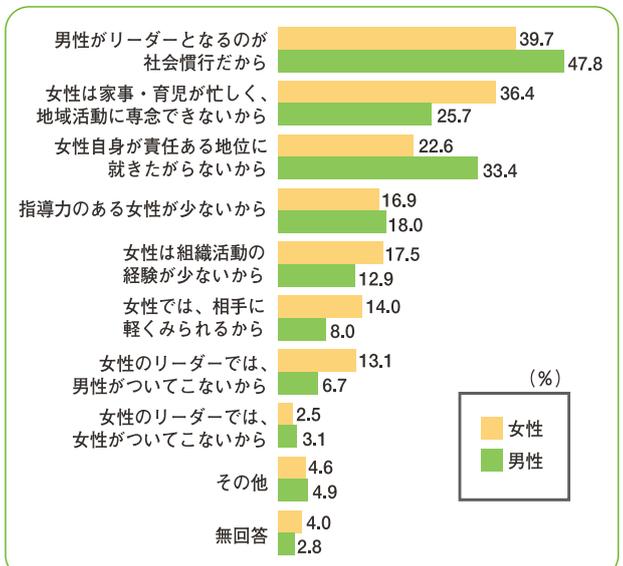
ぜひ、家事のスキルアップをおすすめします。

地域から始めよう！ 男女共同参画

男女共同参画は決して特別なことではありません。固定的な男女の役割にとらわれない発想の転換と行動力があれば誰にでも取り組めるものです。まずは、私たちが暮らす地域から始めてみませんか。誰もがいきいきと自分らしく生活できる男女共同参画社会の実現に向けてそのヒントを探ってみました。



データ1 地域団体に女性のリーダーが少ない原因



資料：墨田区男女共同参画推進アンケート調査(平成19年度)より作成

女性も意思決定の場に参画しよう

性別や年齢を問わず、誰もが暮らしやすい社会を実現するためには、地域の意思決定をする場にも男女が共に参画し、様々な意見を出し合っめていく必要があります。

昔ながらの下町の良さが息づく墨田区には、地域団体をはじめとし、様々な活動を行う団体が多く存在します。それらの地域で活動する団体の長や役員が多くが男性というのが現状です。その原因としては、「男性がリーダーとなるのが社会慣行だから」あるいは「女性では軽くみられる」などの意識があげられます。

長やリーダーを選ぶ際には、性別にとらわれず適任者を選ぶようにする、また女性も積極的に責任のある役を引受けてみるのが大切です。

誰もが参加できる仕組みづくり

一方、地域活動の参加状況を見ると、女性より男性の参加が少なくなっています。中でもPTAや子ども会などの活動を担っているのは主に女性です。活動の多くが平日に行っており、男性は参加しなくてもできないのが現状のようです。

共働き家庭が増えていることから、ときには休日や夜間の時間帯の活動日を設けるなど、様々な立場の人が参加できるように仕組みづくりが求められます。

また、一人ひとりが仕事と生活のバランスを見直すことも大切です。生涯にわたり豊かな人生を送るには、仕事だけでなく、家庭や地域で過ごす時間が必要です。地域活動に参加したり、子育てを楽しんだりする時間をつくり出すために、残業しない日を決めるなど、働き方を変えてみませんか。

男女共同参画の視点から見直す

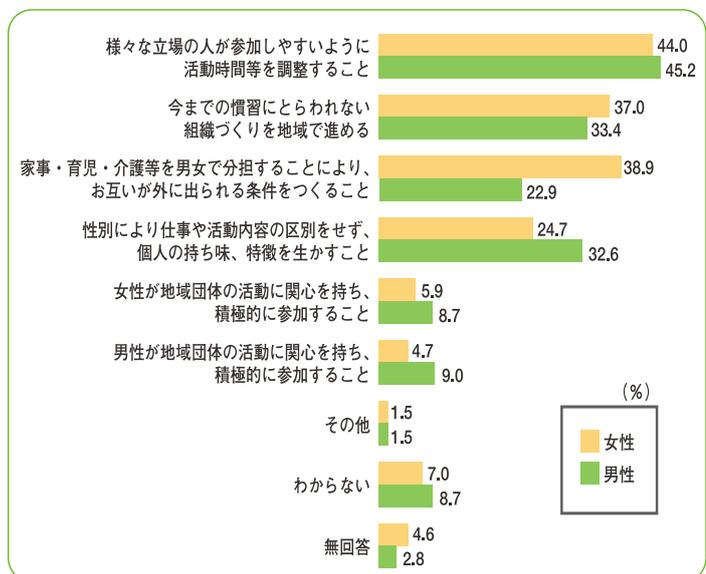
私たちの社会には、「男性はこうあるべき」「女性はこうあるべき」という、性別による固定的な役割分担意識が根強くあります。そのため、男性は働くことが中心で、家庭や地域にかかわる時間があり持ちません。また女性は、家事や子育てなど、家庭を担うことが中心で、職場や地域で自分の力を発揮する機会がなかなかありません。

男女共同参画社会を実現するには、一人ひとり



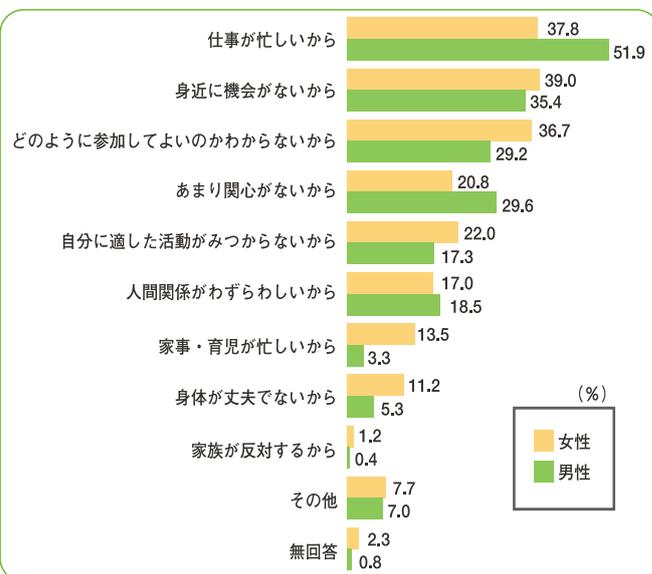
が自分の生き方を見直し、行動につなげていくことが大切です。これまでの慣習にとらわれず、女性も男性も、家庭、職場、地域など、社会の様々な場面にかかわっていきませんか。地域の役員を頼まれたら引受けてみる、子どもの学校行事に積極的に参加してみる。また、区の様々な施設で開催される講座に参加し、地域の男女共同参画について学んだり、意見交換したりしてみるなど、できることから始めてみましょう。そんな一人ひとりの一歩が社会を変える力となります。

データ3 地域活動における男女の共同参画推進のために必要なこと



資料：墨田区男女共同参画推進アンケート調査(平成19年度)より作成

データ2 地域活動に参加しない理由



資料：墨田区男女共同参画推進アンケート調査(平成19年度)より作成

私のチャレンジ！
 行動は社会を変える大きな力となります。
 地域で積極的に男女共同参画に
 取り組む区民の方を紹介します。

一人ひとりの力を活かす
 ものづくりには男女それぞれ
 の視点が必要です。



久米繊維工業(株)代表取締役 久米信行さん

久米信行さんが代表取締役を務める久米繊維工業(株)は、昭和10年創業の国産Tシャツの専門メーカーです。オリジナルにこだわり、デザインから裁断、縫製、プリントに至るまで国内で一貫して生産しています。



地元のお店街で生まれ育った久米さんが特に力を入れていることが、地域の

活性化です。これまでものづくりを通して墨田区の魅力を広めるイベントを多数企画してきました。

「私自身、地元のコロッケ屋のおばちゃん、魚屋のおじちゃんたちとのふれあいの中で色々なことを学び育ちました。そんな人情あふれる商店街の魅力を伝えたいと思い、お手伝いさせてもらっています。」

その一つが、昨年8月に開催したキラキラ商店街七夕まつりの「子どもTシャツアート展」です。これは、早稲田大学のゼミの学生、キラキラ商店街と地域の子どもの協力で実現したもので、参加した親子や商店街

の皆さんからは「いい思い出になった」「宝物ができました」という声がたくさん寄せられました。

こうした地域の活性化に一役買うことは、社員のものづくりの精神を育むことにもつながっているという久米さん。



「地元の方から感謝の声をいただくことで、社員一人ひとりが自分の仕事に誇りを持つようになるようになります。」

した」

さらに、本社社員の約半数が女性という同社では、女性の活用にも積極的に取り組んでいます。「社員みんなが事業部長」という発想のもと、男女を問わず責任のある仕事を任せたり、育児休業中の復帰プログラムや長期休暇制度を設けたり、いきいきと働ける職場づくりを進めてきました。

「ものづくりに男女それぞれの視点や発想が必要ですし、それぞれの個性を活かすことが会社の発展にもつながると思います。代々受け継いだTシャツづくりを通して、女性も男性も豊かに生きられる生活スタイルを発信していきたいですね」と語ってくださいました。

お父さんのPTA活動

「できる時にできること」
 から始めました。



元PTA会長

須貝利喜夫さん

仕事が忙しい父親にとって、PTAの役員活動は参加したくてもできない

のが現状ではないでしょうか。「まさに我が家もそうでした」とい

「須貝利喜夫さん。フルタイムで働く妻と協力しあい3人の子どもを育ててきました。」

「特に小学校では活動が平日の昼間でしたので、頼まれてもお引受けすることが難しい状況でした」

そんな須貝さんがPTA会長を引受けることになったのは、子どもが中学生の時、前任者から「自分のできる範囲でいいから会長をやってもらえないか」という依頼があったことがきっかけでした。

「活動日が土曜日だったこと、そして何より『できる時にできること』とハードルを低くしてもらったことで、それならやれると思い、引受けることになりました」

しかし、自分のできる範囲といっても、やるからには男性の自分にやれることをやるうと考えた須貝さん。新しい試みにもチャレンジしました。

その一つが、小学校が統廃合で1校になったことを機に、小・中合同の夜間パトロールを実施したことです。さらに区に助成を申請し、オリジナルの腕章も作りました。また、これまで親が中心になって活動していたバザーを、生徒会を巻き込んで子どもと一緒に模擬店を開くなど、親子で参加できるようにし、その収益金で、冷水機を購入し学校に設置しました。

「活動を通して新しいことをやる時には、男性の力も必要だと感じました。以後、私のような会社勤めの男性が会長や役員となっており、本当にやって良かったです。お蔭様で私もあいさつを交わす知りあいが増え、地域と良いつながりができました」

3年間のPTA会長の経験を活かし、現在は、地域のガバナンス会議にも参加しているとのこと。「地域にも男女共同参画の視点を取入れ、誰もが仕事、子育て、地域との交流において幸せを実感できるようなコミュニケーションを築いていきたいですね」と抱負を語ってくださいました。



人の役に立つという貴重な経験

女性も勇気を出して引受けてみませんか。



民生委員・児童委員 鎌形由美子さん

民生委員・児童委員は、民間の奉仕者として厚生労働大臣から委嘱されており、地域での困った事の相談を受けたり、助けが必要な人と行政機関とのパイプ役となったりするのが主な仕事です。鎌形由美子さんが第三地区の民生委員・児童委員を引受けたのは今から15年前のことです。「当時は民生委員という言葉しか知らず、とても自分にはできそうにないと思い、お断りするつもりでした」

そんな鎌形さんの背中を押してくれたのは、「貴重な経験になるからやってみるといいよ」という義父と夫の言葉だったといいます。

義父母と同居するために墨田区に越して来る以前は、千葉に住んでいたため、地域に馴染みがなく、当初は知らないお宅に伺うことに抵抗があったという鎌形さん。そこで近所の方たちに

協力してもらいながら、一つひとつ地域の様子を学んでいきました。

「大切なのは地域の方との信頼関係だと思っています」

まちの皆さんにお会いするたびに、「こんにちは」「何かあったら教えてください」「こんばんは」と積極的に声をかけていたそうです。

「あまり立ち入りすぎてもご迷惑になり、難しい面もありますが、ご家族やご本人から感謝されると、やってよかったと思いますね」という鎌形さん。今、一番心配なのは高齢者の孤独死や児童虐待の問題だといいます。

「誰もが安心して暮らせる地域にしていきたいためには、民生委員の仕事は重要です。女性の皆さんも自分にできるかしらと思わずに、ぜひ引受けてほしいと思います」と語ってくださいました。

**墨田区男女共同参画推進プラン
(平成21年度・25年度)を策定しました**

このたび、新しい「墨田区男女共同参画推進プラン」(平成21年度～25年度)を策定しました。このプランは、平成21年度を初年度とし平成25年度を最終年度とする5年間の計画で、女性も男性も個性と能力を発揮しながら、様々な分野に平等に参画し、いきいきと生活できる男女共同参画社会を築くため、施策の総合的・横断的な推進を図ることとしています。

策定にあたっては墨田区男女共同参画推進委員会から区長に提出された「墨田区男女共同参画プラン見直しに向けて」(答申)や「墨田区男女共同参画推進アンケート調査」、「区民を対象としたヒアリング」の結果を踏まえ、次の3つの基本的考え方に基づき計画の理念の構築や施策の体系化を行いました。

平成18年4月に施行された「墨田区女性と男性の共同参画基本条例」を区民に浸透させ、それを基盤として区民の男女共同参画意識の高揚を図る。

男女共同参画社会実現にかかわる社会情勢の変化に対応するため、重点事項を定め、計画を推進する。

男女共同参画社会実現のための施策を総合的・効果的に展開するため、区・区民・事業者及び地域団体の協働を推進する。

体系では、「認め合い 支えあい」とも創るまち すみだ」を計画上の理念として、6つの基本目標を設定し目標に向けた課題・施策の方向を定め、男女共同参画社会の実現をめざします。

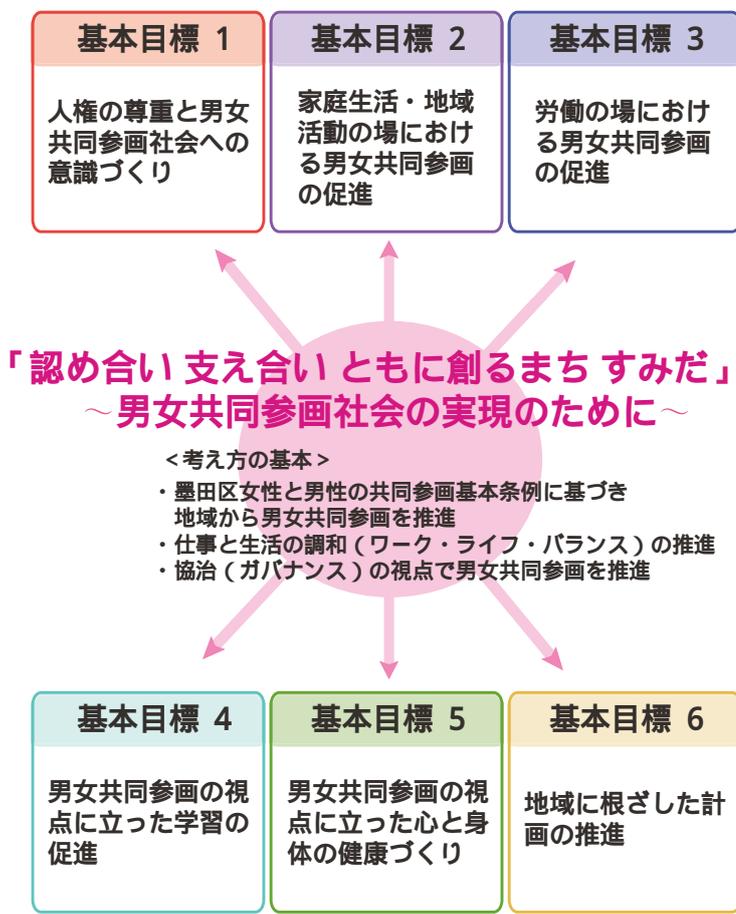
また、今回のプランでは本計画の実

計画の体系

現に向けて、新たに次の4項目を重点事項として位置づけ、目標値を設定しました。(P9「重点事項」参照)

今後も、積極的な施策の展開を図ります。

プランは人権同和・男女共同参画課(区役所12階)、すみだ女性センター(区役所12階 7 111)、区民情報コーナー(区役所1階)、区立図書館・図書室のほか、区の公式ホームページからご覧になれます。



シンポジウムを開催しました

6月20日(土)、すみだリバーサイドホールで、区と墨田区男女共同参画推進委員会、すみだ女性センター運営委員会との共催でシンポジウムを開催しました。

シンポジウムの第1部の基調講演では、ペギー葉山氏をお迎えし、幼少のころから現在までのご自身の経験などをお話いただきました。

第2部では、「女性も男性も自分らしく…」と題し、第1部のペギー葉山氏の講演の感想や、「自分らしさ」など男女共同参画について少人数のグループに分かれて話し合いを行いました。各グループとも活発な意見交換が行われ、有意義なシンポジウムとなりました。



【問合せ】

人権同和・男女共同参画課(区役所12階)

TEL 03(5608)6512

重点事項

重点事項 1

地域から男女共同参画を推進

墨田区では、地域で活動する様々な団体と連携しながら、男女共同参画を推進する体制を整え、地域からの男女共同参画を推進していきます。家庭や地域において、男女共同参画の意識づくりに力を入れることで、男女共同参画の考え方を広域的に啓発することにつながり将来にわたる意識啓発の基盤を作ることができます。地域から男女共同参画意識を育む取組を行います。

<目標値の設定>	現状値 (平成19年度)	目標値 (平成25年度)
「墨田区女性と男性の共同参画基本条例」の認知度	19.5%	40%
墨田区男女共同参画推進プランの認知度	24.1%	45%

重点事項 2

仕事と生活を両立する環境を構築

男女共同参画社会を実現するためには、女性も男性も、家庭、職場、地域等の社会のあらゆる分野において、お互いを認め合い、尊重し合いながら協力していかなければなりません。女性と男性が、お互いを尊重し、協力し合いながら、豊かで充実した人生を送るためには、男女ともに仕事(ワーク)と生活(ライフ)のバランスを図り、調和のとれた生活ができるようにしていくことが重要です。そのための意識づくりや環境整備に積極的に取り組んでいきます。

<目標値の設定>	現状値 (平成19年度)	目標値 (平成25年度)
家庭の中では男女平等になっていると考える区民の割合	女性 28.7% 男性 42.7%	女性 34% 男性 48%
地域活動に参加している区民の割合	女性 49.5% 男性 36.5%	女性 55% 男性 42%

重点事項 3

男女共同参画の視点にたち暴力の根絶を推進

ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメント、ストーカー等、主に女性に対して行われる暴力に悩む方が増加しています。配偶者やパートナー等への暴力は、重大な人権侵害であり、これを見逃すことはできません。この問題を解決するため、様々な機会を通じて意識啓発に力を入れるとともに、相談・支援・保護を行う体制の充実に取り組めます。

<目標値の設定>	現状値 (平成19年度)	目標値 (平成25年度)
身体的・精神的・性的暴力を受けたことがある区民の割合	身体的暴力 女性 5.8% 男性 1.4%	暴力の根絶をめざします
	精神的暴力 女性 17.7% 男性 9.7%	
	性的暴力 女性 10.4% 男性 1.6%	
ドメスティック・バイオレンスの被害にあった人のうち相談した人の割合	女性 38.6% 男性 19.0%	女性 70% 男性 40%

重点事項 4

男女共同参画を推進するための基盤構築

男女共同参画社会の実現には、家庭や地域、学校、職場など様々な場における取組が必要です。また、男女共同参画社会を構築するためには、意識の啓発だけではなく意識を育てる学習の場が大変重要な役割を果たします。それらの取組を総合的に推進していくためには、区民の活動を中心となって支援する拠点施設を充実させることが重要です。また、男女共同参画社会を実現するためには、社会の各分野において、女性が意思決定過程へと参画していくことが重要となります。区では、あらゆる分野での女性の積極的な登用を働きかけるとともに、女性自身の積極的な取組を支援します。

<目標値の設定>	現状値 (平成19年度)	目標値 (平成25年度)
すみだ女性センターの周知・利用度	女性 69.7% 男性 42.9%	女性 75% 男性 48%
区の審議会等における女性の割合	25.2%	50%

男女共同参画社会推進のための拠点施設

すみだ女性センター

〒131-0045
東京都墨田区押上
二丁目12番7-111号
TEL 03(5608)1771
FAX 03(5608)1770

女性のための
カウンセリング&DV相談
【相談日時】
毎週月・火・水・金曜日、
毎月第2土曜日
午前10時～午後4時
要予約 TEL 03(5608)
1772

【開館時間】
月曜日～土曜日 午前9時～午後9時
日曜日・祝日 午前9時～午後5時



すみだ女性センターからのお知らせ
すみだ女性センターは
男女を問わず利用できます
男女共同参画社会に向けた講座や講演のほか、男女共同参画関連の図書の出しや関連紙・雑誌の閲覧、また施設の貸出し(有料)も行っています。詳しい内容や申込方法は、すみだ女性センターへお問い合わせください。区報等でもご案内します。
また、専門のカウンセラーが女性の持つ様々な悩みやDVに関する相談をお受けしますので、お気軽にご相談ください。

まだまだある就職差別？

さくらの就活奮闘記 の巻

墨田さん一家は会社員のお父さん、パートで働くお母さん、大学生のさくら、高校生の太郎とおじいちゃん、おばあちゃんの6人が一つ屋根の下で暮らす、にぎやか3世代家族。

現在、大学3年生のさくらは、建築士めざして就職活動中。友人たちと情報交換しながら日々奮闘しています。そんなさくらたちを励まそうと、ある日の昼休み、ゼミの教授が声をかけてくださいました。さて、どんな会話が聞かれるのでしょうか。



おじいちゃん



おばあちゃん



お父さん



お母さん



太郎



さくら

墨田さんちの
男女共同
参画物語
さんかく
ものがたり
だんじょ
きょうぶつご

墨田さんちの

教授 さくらさん、その後、就職活動の手応えは

どう？

さくら はい。アドバイスいただいた通り、女性の活用に積極的な企業にしばって訪問しています。

教授 そうだね。就職難で不利な面もあるけれど、不況を乗りきるために、能力があれば、採用しよつという企業もあると思うね。

さくら はい。むしろ、大手より中小企業のほうが感触がいいみたいです。人事の方が、不況の中を生き残るには女性が活躍する会社にしてほしいとおっしゃっていました。

教授 そういう会社は将来有望だと思うよ。男女雇用機会均等法で、採用における男女差別が禁止されているとはいえ、実際には女性に不利な面や不当な扱いはまだまだあるからね。

Aさん そう思います。私は、商社に勤めたいのですが、総合職だと女性は難しいと聞いたので、一般職で応募しようかと思っています。

さくら そうなの。商社の第一線で働くのが夢だったんじゃないの？

Aさん もちろん、そのつもりだけど、理系の技術職のさくらと違って、文系女子の場合、なかなか難しいのよ。

Bさん 先輩の話によると、面接の際女性は、



就職難

厚生労働省・文部科学省の調査によると、平成20年度の大学卒業者の就職率(内定)は、95.7%で前年同期により1.2ポイント減っています。男女別では、男子が95.9%、女子では95.4%となっています。

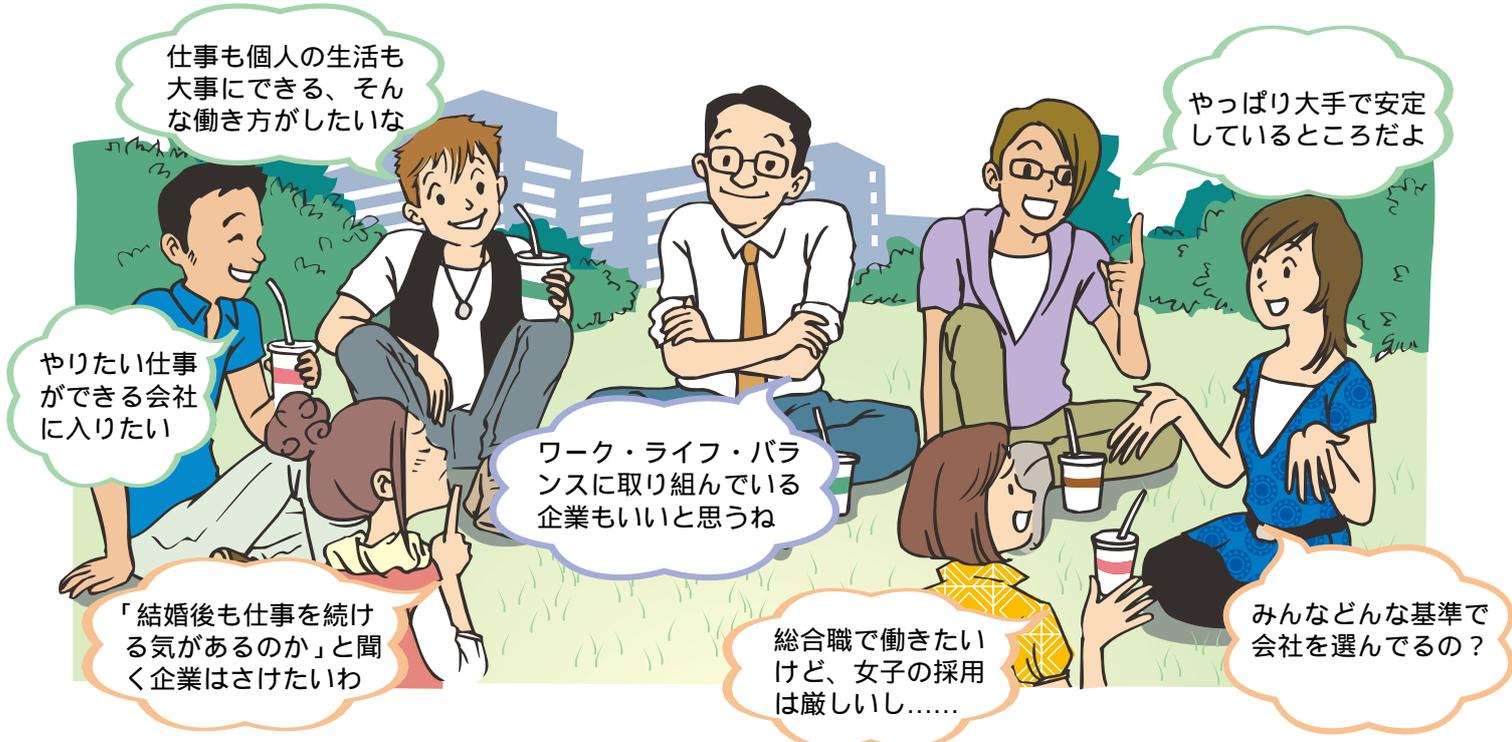
総合職

転勤などが伴う基幹的・総合的業務を担う仕事で、管理職への道が開かれているのが総合職です。これに対し、事務職など、補助的で定型化された仕事に従事するのが一般職です。

男女雇用機会均等法では、総合職も一般職も男女共に募集・採用することが原則となっています。しかし、実際には、総合職は男子、一般職は女子などに区分され、採用が行われるケースがみられます。

技術職

建築士やエンジニアなどのような技術職・専門職をめざす女性が増えています。しかし、実際はまだまだその割合が少ないのが現状です。研究職



「結婚や子どもができた後も仕事を続ける気があるのか」と聞かれるケースもあるらしいです。

教授 いまだにそんな質問をするような企業は遅れているね。確かにかつては「仕事は結婚するまで」という女性が多かったのは事実だろうけれど、今は男女を問わず、社会の中で自分の能力を発揮して働き、支えあっていく時代だからね。

くくん 同感です。将来結婚したら、二人で働いて家庭を支えあっていきたいので、ワーク・ライフ・バランスに力を入れている企業に就職したいと思っています。

教授 これからはそういう企業が増えてくると思うよ。ワーク・ライフ・バランス、つまり、仕事と生活の調和のとれた働き方は、効率が上がったり業績アップにつながるなど、企業にとってもメリットのあることだから。

くくん そう思います。やりがいのある仕事に就いてバリバリ働きたいと思うけれど、同時に私生活も大事にできる働き方が理想です。

さくら そうね。仕事と生活のバランスは、決して女性だけの問題ではないと思うわ。

教授 そうだね。不況の中、自分の将来が見えないという学生も多いが、きみたちにはぜひ、やりたい分野にチャレンジしてほしいね。

これ何の数字？

58位

ジェンダー・エンパワーメント指数

2008年の国連開発計画(UNDP)の報告書によると、日本は長寿・教育・所得の充足度を示す「人間開発指数(HDI)」は179か国中8位ですが、政治・経済活動への女性の参画を示す「ジェンダー・エンパワーメント指数(GEM)」は108か国中58位と大きく落ち込んでいます。ジェンダー・エンパワーメント指数は具体的には、国会議員に占める女性の割合、管理職に占める女性の割合、専門職・技術職に占める女性の割合及び男女の推定所得から算出されるもので、女性の社会進出が進んだものの、まだまだ女性の地位が低いことがうかがえます。

人間開発指数(HDI)

- 1位 アイスランド
- 2位 ノルウェー
- 3位 カナダ
- ...
- 8位 日本

ジェンダー・エンパワーメント指数(GEM)

- 1位 スウェーデン
- 2位 ノルウェー
- 3位 フィンランド
- ...
- 58位 日本

などにおいても同様な状況がみられます。ちなみに、研究職に占める女性の割合は12.4%で、先進国(ロシア、スペイン、アメリカ、イタリア、フランス、イギリス、ドイツ、韓国)の中で一番低いものとなっています。

さくらのように理系が得意という女性もいます。将来、やりたい分野にチャレンジできるよつ、内閣府では、女子高生・学生等の理工系の分野への進路選択を支援するための「チャレンジ・キャンペーンサイト」を設けています。

<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>

やりたい分野にチャレンジ

